

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	からふる太田		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 1月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的に面談や子育てに関する助言を心がけている	定期的な面談に加え、問題や懸念が生じた場合には、その都度個別に面談の機会を設け、状況の把握や課題解決に努めています。	LINEを活用し、気軽に相談しやすい環境を整えることで、いつでも安心して連絡・相談ができる体制を構築しています。
2	こども一人ひとりに適切なアセスメントを行い、ニーズや課題を踏まえた支援計画を作成しています。	スタッフが参加する定期的な支援会議を実施し、情報共有や支援方針の検討を行っています。 また、スタッフが関与しながらアセスメントを作成しています。	個別計画の作成プロセスが適切に整備されており、スタッフ一人ひとりがその手順を理解したうえで、効果的に活用しながら計画作成を実施できています。
3	専門的な資格を取得したスタッフが多く在籍している。 ※基本的に保育士、児童指導員の資格を有しているものが指導員として配置されております。また、正職員については、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）を全員修了受講しております。	法人として強度行動障害支援者養成研修を実施し、指導者研修を修了した社員が講師を務めることで、資格取得の支援や専門的知識・技術を学ぶ機会を積極的に提供しています。	社内研修に加え、外部研修にも積極的に参加し、スタッフが専門的な知識やスキルを学ぶ機会の充実を図っています。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもたちの活動に必要なスペースについて、十分に確保できていないと感じられる状況があります。	子どもたちの成長に伴い、施設内の空間がやや手狭に感じられる状況ですが、現状では部屋の拡張が難しい状況にあります。	限られた室内空間をより有効に活用するため、部屋の中心部分を広く確保し、家具や備品を壁際に配置するレイアウトへと見直しを行っていました。
2	保護者に対する非常時（事故・怪我等）の対応説明について、十分とは言えない部分があり、内容や周知方法の充実が課題となっています。	非常時の対応について内容の伝え方や周知方法において十分とは言えない部分があります。 保護者が緊急時の対応を具体的にイメージできるよう、より分かりやすく丁寧な説明が求められている。	事故等（怪我を含む）発生時の対応に関する説明内容を見直し、文書配布や掲示、定期的な案内に加え、利用開始時や引き継ぎ時の説明を通じて周知の強化を図っていきます。 また保護者からの質問や不安に適切に対応できる体制を整えるとともに、事故等（怪我を含む）発生後のフォローや心身のケアにも十分配慮し、継続的な安心の確保につなげていきます。